

国語

目次

1	国語科改訂のポイント	-----	1
2	国語科の目標のポイント	-----	3
3	国語科の内容のポイント	-----	4
4	各学年の指導のポイント	-----	6
5	国語科の指導計画作成上のポイント	-----	10
6	奈良県の郷土素材などを活用した指導例	-----	13

1 国語科改訂のポイント

(1) 目標及び内容の構成

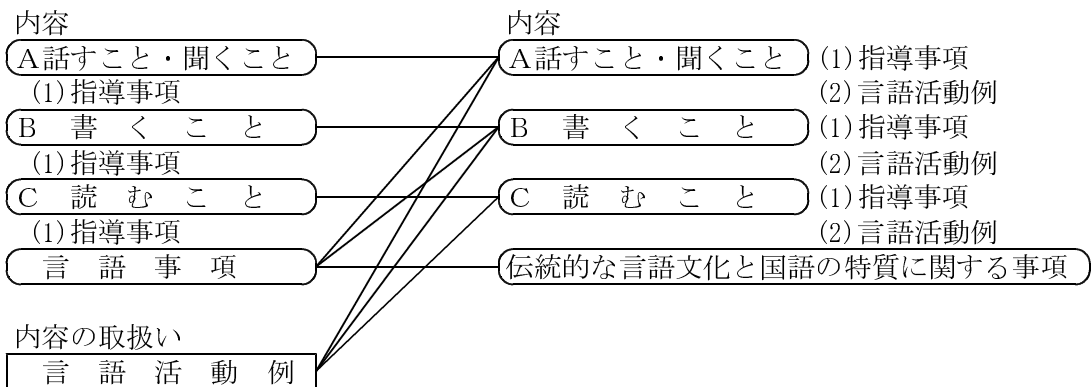
- 教科の目標は、これまでと変更はなく次のとおりである。

国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を養い言語感覚を豊かにし、国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てる。

- 内容については、これまでは「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の3領域及び〔言語事項〕で構成していたが、3領域と〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕に改めている。
- 第2学年及び第3学年については、これまでは目標と内容を2学年まとめて示していたが、今回の改訂では学年ごとに示している。
- 各領域では、各領域の内容を(1)の指導事項に示すとともに、これまでは内容の取扱いに示していた言語活動例を内容の(2)に位置付けた。これは、国語の能力を調和的に育て実生活で生きて働くように、それぞれの領域の特性を生かしながら生徒主体の言語活動を活発にし、国語科の目標を確実に豊かに実現することを目指したためである。

〈平成10年版〉

〈平成20年版〉



・各学年の内容の指導に当たって、(1)に示す指導事項を(2)に示す言語活動例を通して指導することを一層重視する。

- 〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕は、我が国の言語文化を享受し継承・発展させる態度を育てることや、国語が果たす役割や特質についてまとまった知識を身に付けることとともに、実際の言語活動において有機的に働くような能力を育てることに重点を置いて構成している。

(2) 学習過程の明確化

- 自ら学び、課題を解決していく能力の育成を重視し、指導事項については学習過程を明確化している。



・学習過程の明確化は、総則の第4の2に示している「(6) 各教科等の指導に当たっ

- 平成22年11月30日に常用漢字表が改定されたことに伴い、中学校学習指導要領（平成20年版）の一部を改正する告示が公示され、漢字の「読み」に関する事項が以下のように改正された。

【一部改正された中学校学習指導要領国語の漢字の「読み」に関する事項】

[第1学年] (下線部は改正部分)

小学校学習指導要領第2章第1節国語の学年別漢字配当表（以下「学年別漢字配当表」という。）に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読むこと。

[第2学年]

第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読むこと。

[第3学年]

第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読むこと。

なお、中学校国語科における漢字の「書き」の指導については、中学校学習指導要領の取扱いに変更はない。

【参考】常用漢字表の内閣告示等について（文化庁 Web ページ）

http://www.bunka.go.jp/kokugo_nihongo/jyoyokanji_kokuji.html

(8) 書写の指導の改善

- 書写の指導については、文字文化に親しみ、社会生活や学習活動に役立つよう内容や指導の在り方の改善を図るとともに、身の回りの文字に関心をもち文字を効果的に書くように指導することを求めている。

2 国語科の目標のポイント

(1) 教科の目標

国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を養い言語感覚を豊かにし、国語に対する認識を深め国語を尊重する態度を育てる。

- 国語の能力の根幹となる、国語による表現力と理解力とを育成することが、国語科の最も基本的な目標であり、人間と人間との関係の中で、互いの立場や考えを尊重し、言語を通して適切に表現したり正確に理解したりする伝え合う力を高めることが重要である。このような言語能力は、社会生活に生きて働くよう、一人一人の生徒が言語の主體的な使い手として、相手、目的や意図、多様な場面や状況などに応じて適切に表現したり正確に理解したりする力として育成することが大切である。
- 思考力や想像力を養い言語感覚を豊かにし、国語に対する自覚と関心を高め、その特質や機能についての認識を深めさせることによって、国語の習得を一層確実にすることが重要である。また、国語に対する認識を深めていくことによって、国語を愛護し、尊重して、国語そのものを一層優れたものに向き上げていこうとする意識や態度を育成することが大切である。

(2) 学年の目標

○ 各学年の目標は、各領域に対応して、次の3項目を示している。

- | |
|--|
| (1) 「話すこと・聞くこと」に関する目標 … 話す能力、聞く能力及び話し合う能力と、
話すこと・聞くこと全体にわたる態度に関する目標 |
| (2) 「書くこと」に関する目標 … 書く能力と書く態度に関する目標 |
| (3) 「読むこと」に関する目標 … 読む能力と読書態度に関する目標 |

○ 各領域の「2 内容」の(1)指導事項と(2)言語活動例とを併せて考え、目標に対する具体的な指導内容を明確にすることが重要である。また、各学年とも各領域の目標はそれぞれ独自の目標として示しているが、同時に相互に密接な関連性がある。したがって、各領域の目標を関連付けるとともに、指導が調和的に行われるような配慮をする必要がある。

3 国語科の内容のポイント

(1) 内容構成

○ 国語科の内容は、これまでの「A話すこと・聞くこと」、「B書くこと」及び「C読むこと」からなる3領域構成を維持するとともに、伝統的な言語文化に親しむ態度を育てたり、国語の特質についての理解を深めたり、豊かな言語感覚を養ったりすることなどを重視して、〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕を新設している。

○ 〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕の内容は、(1)の「ア伝統的な言語文化に関する事項」、「イ言葉の特徴やきまりに関する事項」、「ウ漢字に関する事項」、(2)の書写に関する事項から構成している。なお、従前の〔言語事項〕の内容のうち、声の出し方の基本的事項や段落の役割に関する事項など領域の内容に関連の深いものについては、関係する領域の内容に位置付けている。(「4 各学年の指導のポイント」(1)の表内～線部)



国語科の内容構成

- ・「A話すこと・聞くこと」
 - ・「B書くこと」
 - ・「C読むこと」
 - ・〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕
 - (1) 「ア伝統的な言語文化に関する事項」
 - 「イ言葉の特徴やきまりに関する事項」
 - 「ウ漢字に関する事項」
 - (2) 書写に関する事項
- 各領域の指導を通して指導する。
- (1)ウの指導や「B書くこと」の領域の指導との関連を図る。

(2) 各領域及び〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕の内容

A話すこと・聞くこと

○ 「A話すこと・聞くこと」の指導事項

- ・ 話題設定や取材に関する指導事項……話したり話し合ったりするための話題を決め、多様な方法で材料や情報を集め整理すること

- ・話すことに関する指導事項……相手や目的、状況に応じて分かりやすく話すこと
- ・聞くことに関する指導事項……話の内容を聞き取り、自分の考えに生かすこと
- ・話し合うことに関する指導事項……目的や場面に応じて話し合うこと



「A 話すこと・聞くこと」の言語活動例

- ・話し手がある程度まとまった話をし、それを聞いて質疑応答や意見交換をする言語活動
- ・互いの思いや考えなどを深めたり広げたりしていく対話や討論などの言語活動

B 書くこと

○「B 書くこと」の指導事項

- ・課題設定や取材に関する指導事項……書く課題を決め、材料を集めながら自分の考えを形成すること
- ・構成に関する指導事項……自分の考えに即して取材したことを生かすとともに、文章の構成を考えること
- ・記述に関する指導事項……記述の仕方を工夫すること
- ・推敲こぎに関する指導事項……読みやすく分かりやすい文章にするために推敲すること
- ・交流に関する指導事項……書いた文章を互いに読み合い、自分の表現に役立てるとともに、自分の考えを広げたり深めたりすること



「B 書くこと」の言語活動例

- ・物事について感じたことを書く言語活動
 - ・物事を整理し、考えや意見を書く言語活動
 - ・事実や思いなどを伝える文章を書く言語活動
- など

C 読むこと

○「C 読むこと」の指導事項

- ・語句の意味の理解に関する指導事項……語句の意味や用法などに注意して読むこと
- ・文章の解釈*に関する指導事項……構成や叙述などに基づいて文章を解釈すること
- ・自分の考えの形成に関する指導事項……書かれていることを読んで自分の考えをもつこと
- ・読書と情報活用に関する指導事項……読書を進めたり、情報を得て活用したりすること

※文章の解釈…文や文章に書かれた内容を理解し意味付けること。内容や表現を、想像、分析、比較、対照、推論などによって相互に関連付けて読む。



「C 読むこと」の言語活動例

- ・主として文学的な文章を読むことについての言語活動
- ・主として説明的な文章を読むことについての言語活動
- ・目的をもって読書を進めることについての言語活動

〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕

○ 以下のア～ウの事項については、各領域の指導を通して指導する。

- ア 伝統的な言語文化*に関する事項
…伝統的な言語文化のうち、特に古典*についての事項

※伝統的な言語文化…小学校の低学年から触れ、中学校においても引き続き古典に親しむ態度の育成を重視。

- イ 言葉の特徴やきまりに関する事項
 - ・言葉の働きや特徴、言葉遣いに関する事項
 - ・語句・語彙に関する事項
 - ・単語、文及び文章に関する事項
 - ・表現の技法に関する事項
- ウ 漢字に関する事項



漢字の読みの指導……小学校学習指導要領第2章第1節国語の学年別漢字配当表（以下、「学年別漢字配当表」という。）に示されている漢字1006字に加え、中学校修了までに学年別漢字配当表以外の常用漢字の大体を読むこと。

漢字の書きの指導……学年別漢字配当表の漢字1006字について、社会生活や他教科等の学習に一層資するようにするため、これまでは中学校修了までに「文や文章の中で使うこと」と示していたが、今回の改訂では第2学年までに「文や文章の中で使うこと」とし、第3学年では「文や文章の中で使い慣れること」としている。

○ **書写に関する事項**

国語科の指導として「漢字に関する事項」の指導や、「B書くこと」の領域の指導と密接に関連している。小学校の指導を踏まえ、文字を書くことに関する知識・技能の育成が、国語科をはじめとする各教科等の学習場面や社会生活における、話す、聞く、書く、読むといった言語活動に役立つようにすることが大切である。


4 各学年の指導のポイント



各学年の内容(1)の指導事項については学習過程が明確にされるとともに、社会生活に必要なとされる言語活動例が内容の(2)に示されている。また、学年間の指導内容についても系統化が図られている。

(1) 第1学年の指導のポイント

	目 標	内容(1) 指導事項	内容(2) 言語活動例
A 話 す こ と ・ 聞 く こ と	目的や場面に応じ、日常生活にかかわることなどについて構成を工夫して話す能力、話し手の意図を考えながら聞く能力、話題や方向をとらえて話し合う能力を身に付けさせるとともに、話したり聞いたりして考えをまとめようとする態度を育てる。	<p>ア 日常生活の中から話題を決め、話したり話し合ったりするための材料を人との交流を通して集め整理すること。</p> <p>イ 全体と部分、事実と意見との関係に注意して話を構成し、相手の反応を踏まえながら話すこと。</p> <p>ウ <u>話す速度や音量、言葉の調子や間の取り方</u>、相手に分かりやすい語句の選択、相手や場に応じた言葉遣いなどについての知識を生かして話すこと。</p> <p>エ 必要に応じて質問しながら聞き取り、自分の考えとの共通点や相違点を整理すること。</p> <p>オ 話合いの話題や方向をとらえて的確に話したり、相手の発言を注意して聞いたりして、自分の考えをまとめること。</p>	<p>ア 日常生活の中の話題について報告や紹介をしたり、それらを聞いて質問や助言をしたりすること。</p> <p>イ 日常生活の中の話題について対話や討論などを行うこと。</p>

B 書 く こ と	<p>目的や意図に応じ、日常生活にかかわることなどについて、構成を考えて的確に書く能力を身に付けさせるとともに、進んで文章を書いて考えをまとめようとする態度を育てる。</p>	<p>ア 日常生活の中から課題を決め、材料を集めながら自分の考えをまとめること。 イ 集めた材料を分類するなどして整理するとともに、<u>段落の役割</u>を考えて文章を構成すること。 ウ 伝えたい事実や事柄について、自分の考えや気持ちを根拠を明確にして書くこと。 エ 書いた文章を読み返し、表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、読みやすく分かりやすい文章にすること。 オ 書いた文章を互いに読み合い、題材のとらえ方や材料の用い方、根拠の明確さなどについて意見を述べたり、自分の表現の参考にしたりすること。</p>	<p>ア 関心のある芸術的な作品などについて、鑑賞したことを文章に書くこと。 イ 図表などを用いた説明や記録の文章を書くこと。 ウ 行事等の案内や報告をする文章を書くこと。</p>
C 読 む こ と	<p>目的や意図に応じ、様々な本や文章などを読み、内容や要旨を的確にとらえる能力を身に付けさせるとともに、読書を通してものの見方や考え方を広げようとする態度を育てる。</p>	<p>ア 文脈の中における語句の意味を的確にとらえ、理解すること。 イ 文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見などを読み分け、目的や必要に応じて要約したり要旨をとらえたりすること。 ウ 場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容の理解に役立てること。 エ 文章の構成や展開、表現の特徴について、自分の考えをもつこと。 オ 文章に表れているものの見方や考え方をとらえ、自分のものの見方や考え方を広くすること。 カ 本や文章などから必要な情報を集めるための方法を身に付け、目的に応じて必要な情報を読み取ること。</p>	<p>ア 様々な種類の文章を音読したり朗読したりすること。 イ 文章と図表などとの関連を考えながら、説明や記録の文章を読むこと。 ウ 課題に沿って本を読み、必要に応じて引用して紹介すること。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p> 引用の際には…</p> <p>①かぎ（「」）でくくること ②出典を明示すること ③適切な量 等も指導する。</p> </div>

○ 〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕

(1) 「A話すこと・聞くこと」、「B書くこと」及び「C読むこと」の指導を通して、次の事項について指導する。	
ア 伝統的な言語文化に関する事項	(ア) 文語のきまりや訓読の仕方を知り、古文や漢文を音読して、古典特有のリズムを味わいながら、古典の世界に触れること。 (イ) 古典には様々な種類の作品があることを知ること。
イ 言葉の特徴やきまりに関する事項	<p>言葉の働きや特徴、言葉遣いに関する事項 (ア) 音声の働きや仕組みについて関心をもち、理解を深めること。</p> <p>語句・語彙に関する事項 (イ) 語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意し、語感を磨くこと。 (ウ) 事象や行為などを表す多様な語句について理解を深めるとともに、語や文章の中の語彙について関心をもつこと。</p> <p>単語、文及び文章に関する事項 (エ) 単語の類別について理解し、指示語や接続詞及びこれらと同じような働きをもつ語句などに注意すること。</p> <p>表現の技法に関する事項 (オ) 比喩や反復などの表現の技法について理解すること。</p>
ウ 漢字に関する事項	(ア) 学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち <u>300字程度から400字程度</u> までの漢字を読むこと。 (イ) 学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使うこと。 (下線部は常用漢字表の改定により一部改正された部分)
(2) 書写に関する次の事項について指導する。	
ア	字形を整え、文字の大きさ、配列などについて理解して、楷書で書くこと。
イ	漢字の行書の基礎的な書き方を理解して書くこと。



第1学年の指導に当たって

・小学校での学習内容を振り返らせたり、確認したりするなど、小学校での学習を踏まえた指導を行うことが大切である。

(2) 第2学年の指導のポイント

	目 標	内容(1) 指導事項	内容(2) 言語活動例
A 話 す こ と ・ 聞 く こ と	目的や場面に応じ、社会生活にかかわることなどについて立場や考えの違いを踏まえて話す能力、考えを比べながら聞く能力、相手の立場を尊重して話し合う能力を身に付けさせるとともに、話したり聞いたりして考えを広げようとする態度を育てる。	<p>ア 社会生活の中から話題を決め、話したり話し合ったりするための材料を多様な方法で集め整理すること。</p> <p>イ 異なる立場や考えを想定して自分の考えをまとめ、話の中心的な部分と付加的な部分などに注意し、論理的な構成や展開を考えて話すこと。</p> <p>ウ 目的や状況に応じて、資料や機器などを効果的に活用して話すこと。</p> <p>エ 話の論理的な構成や展開などに注意して聞き、自分の考えと比較すること。</p> <p>オ 相手の立場や考えを尊重し、目的に沿って話し合い、互いの発言を検討して自分の考えを広げること。</p>	<p>ア 調べて分かったことや考えたことなどに基づいて説明や発表をしたり、それらを聞いて意見を述べたりすること。</p> <p>イ 社会生活の中の話題について、司会や提案者などを立てて討論を行うこと。</p> <p> 様々な情報手段、情報機器の活用。</p>
B 書 く こ と	目的や意図に応じ、社会生活にかかわることなどについて、構成を工夫して分かりやすく書く能力を身に付けさせるとともに、文章を書いて考えを広げようとする態度を育てる。	<p>ア 社会生活の中から課題を決め、多様な方法で材料を集めながら自分の考えをまとめること。</p> <p>イ 自分の立場及び伝えたい事実や事柄を明確にして、文章の構成を工夫すること。</p> <p>ウ 事実や事柄、意見や心情が相手に効果的に伝わるように、説明や具体例を加えたり、描写を工夫したりして書くこと。</p> <p>エ 書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係などに注意して、読みやすく分かりやすい文章にすること。</p> <p>オ 書いた文章を互いに読み合い、文章の構成や材料の活用の仕方などについて意見を述べたり助言をしたりして、自分の考えを広げること。</p>	<p>ア 表現の仕方を工夫して、詩歌をついたり物語などを書いたりすること。</p> <p>イ 多様な考えができる事柄について、立場を決めて意見を述べる文章を書くこと。</p> <p>ウ 社会生活に必要な手紙を書くこと。</p> <p> 書写指導との関連を図る。</p>
C 読 む こ と	目的や意図に応じ、文章の内容や表現の仕方に注意して読む能力、広い範囲から情報を集め効果的に活用する能力を身に付けさせるとともに、読書を生活に役立てようとする態度を育てる。	<p>ア 抽象的な概念を表す語句や心情を表す語句などに注意して読むこと。</p> <p>イ 文章全体と部分との関係、例示や描写の効果、登場人物の言動の意味などを考え、内容の理解に役立てること。</p> <p>ウ 文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをまとめること。</p> <p>エ 文章に表れているものの見方や考え方について、知識や体験と関連付けて自分の考えをもつこと。</p> <p>オ 多様な方法で選んだ本や文章などから適切な情報を得て、自分の考えをまとめること。</p>	<p>ア 詩歌や物語などを読み、内容や表現の仕方について感想を交流すること。</p> <p>イ 説明や評論などの文章を読み、内容や表現の仕方について自分の考えを述べること。</p> <p>ウ 新聞やインターネット、学校図書館等の施設などを活用して得た情報を比較すること。</p>

○ 〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕

(1) 「A話すこと・聞くこと」、「B書くこと」及び「C読むこと」の指導を通して、次の事項について指導する。	
ア 伝統的な言語文化に関する事項	<p>(7) 作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界を楽しむこと。</p> <p>(4) 古典に表れたものの見方や考え方に触れ、登場人物や作者の思いなどを想像すること。</p>
イ 言葉の特徴やきまりに関する事項	<p>言葉の働きや特徴、言葉遣いに関する事項</p> <p>(7) 話し言葉と書き言葉との違い、共通語と方言の果たす役割、敬語の働きなどについて理解すること。</p> <p>語句・語彙に関する事項</p> <p>(4) 抽象的な概念を表す語句、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、語感を磨き語彙を豊かにすること。</p> <p>単語、文及び文章に関する事項</p>

	(g) 文の中の文の成分の順序や照応、文の構成などについて考えること。 (e) 単語の活用について理解し、助詞や助動詞などの働きに注意すること。 (f) 相手や目的に応じて、話や文章の形態や展開に違いがあることを理解すること。
ウ 漢字に関する事項	(f) 第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち <u>350字程度から450字程度</u> までの漢字を読むこと。 (i) 学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使うこと。 <p style="text-align: right;">(下線部は常用漢字表の改定により一部改正された部分)</p>
(2) 書写に関する次の事項について指導する。	
ア	漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解して、読みやすく速く書くこと。
イ	目的や必要に応じて、楷書又は行書を選んで書くこと。



第2学年の指導に当たって

- ・第1学年の学習を踏まえ、「社会生活」をキーワードとして学習活動を工夫することがポイントとなる。

(3) 第3学年の指導のポイント

	目 標	内容(1) 指導事項	内容(2) 言語活動例
A 話 す こ と ・ 聞 く こ と	目的や場面に応じ、社会生活にかかわることなどについて相手や場に応じて話す能力、表現の工夫を評価して聞く能力、課題の解決に向けて話し合う能力を身に付けさせるとともに、話したり聞いたりして考えを深めようとする態度を育てる。	ア 社会生活の中から話題を決め、自分の経験や知識を整理して考えをまとめ、語句や文を効果的に使い、資料などを活用して説得力のある話をする事。 イ 場の状況や相手の様子に応じて話すとともに、敬語を適切に使うこと。 ウ 聞き取った内容や表現の仕方を評価して、自分のものの見方や考え方を深めたり、表現に生かしたりすること。 エ 話合いが効果的に展開するように進行の仕方を工夫し、課題の解決に向けて互いの考えを生かし合うこと。	ア 時間や場の条件に合わせてスピーチをしたり、それを聞いて自分の表現の参考にしたりすること。 イ 社会生活の中の話題について、相手を説得するために意見を述べ合うこと。
B 書 く こ と	目的や意図に応じ、社会生活にかかわることなどについて、論理の展開を工夫して書く能力を身に付けさせるとともに、文章を書いて考えを深めようとする態度を育てる。	ア 社会生活の中から課題を決め、取材を繰り返しながら自分の考えを深めるとともに、文章の形態を選択して適切な構成を工夫すること。 イ 論理の展開を工夫し、資料を適切に引用するなどして、説得力のある文章を書くこと。 ウ 書いた文章を読み返し、文章全体を整えること。 エ 書いた文章を互いに読み合い、論理の展開の仕方や表現の仕方などについて評価して自分の表現に役立てるとともに、ものの見方や考え方を深めること。	ア 関心のある事柄について批評する文章を書くこと。 イ 目的に応じて様々な文章などを集め、工夫して編集すること。
C 読 む こ と	目的や意図に応じ、文章の展開や表現の仕方などを評価しながら読む能力を身に付けさせるとともに、読書を通して自己を向上させようとする態度を育てる。	ア 文脈の中における語句の効果的な使い方など、表現上の工夫に注意して読むこと。 イ 文章の論理の展開の仕方、場面や登場人物の設定の仕方をとらえ、内容の理解に役立てること。 ウ 文章を読み比べるなどして、構成や展開、表現の仕方について評価すること。 エ 文章を読んで人間、社会、自然などについて考え、自分の意見をもつこと。 オ 目的に応じて本や文章などを読み、知識を広げたり、自分の考えを深めたりすること。	ア 物語や小説などを読んで批評すること。 イ 論説や報道などに盛り込まれた情報を比較して読むこと。 ウ 自分の読書生活を振り返り、本の選び方や読み方について考えること。

○ 〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕

(1) 「A話すこと・聞くこと」、「B書くこと」及び「C読むこと」の指導を通して、次の事項について指導する。	
ア 伝統的な言語文化に関する事項	(f) 歴史的背景などに注意して古典を読み、その世界に親しむこと。

	(イ) 古典の一節を引用するなどして、古典に関する簡単な文章を書くこと。
イ 言葉の特徴やきまりに関する事項	言葉の働きや特徴、言葉遣いに関する事項 (7) 時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いを理解するとともに、敬語を社会生活の中で適切に使うこと。
	語句・語彙に関する事項 (イ) 慣用句・四字熟語などに関する知識を広げ、和語・漢語・外来語などの使い分けに注意し、語感を磨き語彙を豊かにすること。
ウ 漢字に関する事項	(7) 第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読むこと。 (イ) 学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れること。
(2) 書写に関する次の事項について指導する。	
ア	身の回りの多様な文字に関心を持ち、効果的に文字を書くこと。



第3学年の指導に当たって

- ・義務教育終了段階であることを踏まえ、実生活の様々な場面に生きて働く国語の能力の確実な定着を図ることが大切である。

5 国語科の指導計画作成上のポイント

(1) 各学年の内容の弾力的な指導

- 各学年の内容にある指導事項及び言語活動例については、生徒の発達の段階を踏まえて3学年に分けて示されている。生徒の言語能力が螺旋的に高まるよう、それらを形式的に該当する学年に当てはめて指導したり、その学年だけで指導を終えたりするのではなく、前後の学年を考慮して弾力的に指導することができるように指導計画を立てる必要がある。また、小学校における指導内容についても配慮することが大切である。



- ・学習指導要領に示されている各学年の指導事項に基づきながらも、それぞれの学年や学級の実態を十分に配慮して、当該学年に示されている指導事項でも、その前の学年において初歩的な形で取り上げたり、後の学年において程度を高めて取り上げたりして指導することも考えるなど、各学年の発達の段階を見通して目標の系統性を保ちながら柔軟で弾力的な運用を図り、系統化した効果的な指導がなされるよう計画を立てていくことが大切である。

(2) 領域等の相互関連と学習活動の組織、学校図書館の機能の活用、情報機器の活用

- 「A話すこと・聞くこと」、「B書くこと」、「C読むこと」及び〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕の内容には、相互に関連する要素を含むものがある。指導に当たっては、それらの内容の一つ一つについて検討して、その特質を理解し、それぞれの指導を適切に行いながら、相互の関連を図っていく必要がある。

その取扱いについては、特定の目標を実現するためにそれぞれの内容の相互の関連を、言語活動や教材の特質等との関連でとらえ、見通しをもって効果的な学習を組織することが重要である。その際、全体として系統立ったまとまりのある学習となるように工夫し、重点とした内容が効果的に習得できるように留意することが大切である。

- 国語科の学習指導においては、目標を実現するために学習に関係する資料を調べる際に、学習・情報センター、読書センターとしての機能を備えた学校図書館などを計画的に利用し、その機能の活用を図ることが大切である。
- 情報収集や情報発信の手段としてコンピュータや情報通信ネットワークを活用する機会

を設けること、インターネットや電子辞書等の活用、コンピュータによる発表資料の作成、プロジェクターによる提示等も重要である。



情報機器の活用の例

- ・ 目的や状況に応じて、資料や機器などを効果的に活用して話すこと。
(第2学年「A話すこと・聞くこと」(1)ウ)
 - ・ 新聞やインターネット、学校図書館等の施設などを活用して得た情報を比較すること。
(第2学年「C読むこと」(2)ウ)
- これら以外でも、「A話すこと・聞くこと」における話題設定や取材に関する指導、「B書くこと」における課題設定や取材に関する指導、「C読むこと」における読書と情報活用に関する指導などでは、情報機器の活用が考えられる。

(3) 「A話すこと・聞くこと」の配慮事項

- 「A話すこと・聞くこと」の指導に相当するよう示された授業時数は、指導計画に適切に位置付け、確実に実施することが重要である。指導計画の作成に当たっては、例えば、ある程度まとまった時間を学期ごとに配分して計画する場合、年間を通して週時間を割り当てて計画する場合、さらにその両方を組み合わせて計画する場合などが考えられる。



「A話すこと・聞くこと」の指導に相当する授業時数

第1学年…年間15～25単位時間程度	} 教材については、録音や録画のための機器などを積極的に活用することで指導の効果を高めるように留意する。
第2学年…年間15～25単位時間程度	
第3学年…年間10～20単位時間程度	

(4) 「B書くこと」の配慮事項

- 「B書くこと」の指導に相当するよう示された授業時数は、指導計画に適切に位置付け、確実に実施することが重要である。指導計画の作成に当たっては、例えば、ある程度まとまった時間を学期ごとに配分して計画する場合、年間を通して週時間を割り当てて計画する場合、さらにその両方を組み合わせて計画する場合などが考えられる。



「B書くこと」の指導に相当する授業時数

第1学年…年間30～40単位時間程度
第2学年…年間30～40単位時間程度
第3学年…年間20～30単位時間程度

(5) 「C読むこと」の配慮事項

- 国語科における読むことの学習指導の成果が、生徒の読書意欲を高め、読書力を養い、日常の読書活動に役立つものになることを一層重視して、読書に関連する指導事項と言語活動例が「C読むこと」の内容に位置付けられている。言語文化に対する関心を深めさせつつ、「読むこと」の学習と「話すこと・聞くこと」、「書くこと」などの領域の学習や、他教科等の学習との関連を図り、生徒が様々な文章を読んで、自分の表現に役立てる場面等も積極的に設定する必要がある。

(6) 道徳との関連

- 国語科における道徳教育の指導においては、道徳教育の目標に基づき、道徳の時間などとの関連を考慮する必要がある。国語科における道徳教育の指導においては、学習指導や

学習態度への配慮、教員の態度や行動による感化とともに、国語科の目標と道德教育との関連を明確に意識しながら、適切な指導を行う必要がある。

国語による表現力と理解力を育成するとともに、人間と人間との関係の中で、互いの立場や考えを尊重しながら言葉で伝え合う力を高めることは、学校の教育活動全体で道德教育を進めていく上で、基盤となるものである。また、思考力や想像力を養い言語感覚を豊かにすることは、道徳的心情や道徳的判断力を養う基本になる。さらに、国語を尊重する態度を育てることは、伝統と文化を尊重し、それらを育んできた我が国と郷土を愛することなどにつながるものである。

道徳の時間の指導との関連を考慮するために、国語科の年間指導計画の作成などに際して、道德教育の全体計画との関連、指導の内容及び時期等に配慮し、両者が相互に効果を高め合うようにすることが大切である。

(7) 【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】の(1)の取扱い

- 【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】の(1)は、「A話すこと・聞くこと」、「B書くこと」及び「C読むこと」の指導を通して、それぞれの事項について指導することとしている。



「言葉の働きや特徴、言葉遣い」、「語句・語彙」、「単語、文及び文章」、「表現の技法」に関する事項

- ・単に知識として学習させるだけでなく、実際の言語活動の中で活用され、生きて働く力として身に付けさせることが重要である。
- ・古典に関する基礎的・基本的な内容、言葉の性質の類似性や系統性などについて、生徒の興味・関心や学習の必要に応じ、ある程度体系付けてまとめた知識を得させるような指導も可能である。

(8) 【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】の(2)の取扱い

- (2)は、書写の指導に関する取扱いを示している。



書写の指導のポイント

- ・硬筆及び毛筆を使用する書写の指導は各学年で行う。
 - ・書写の指導に配当する授業時数
- | | |
|-----------------|--|
| 第1学年…年間20単位時間程度 | } 各学年に示された書写の授業時数に応じて、毛筆を使用する書写の指導と硬筆を使用する書写の指導との割合を各学校と生徒の実態に即して、適切に設定する。 |
| 第2学年…年間20単位時間程度 | |
| 第3学年…年間10単位時間程度 | |

(9) 取り上げる教材についての観点

- 教材の選定に当たっては、生徒一人一人が学習意欲をもって国語科の学習に取り組み、その意義や喜びが自覚できるような話題や題材を精選して取り上げることが大切である。



古典に関する教材…古典の原文に加え、古典の現代語訳、古典について解説した文などを取り上げること。

- ・中学校における古典の指導は、生徒が古典に親しみをもてるようにすることをねらいとしている。古典の原文だけでなく、分かりやすい現代語訳や古典の世界について解説した文章などを教材として適切に取り上げることが必要である。

6 奈良県の郷土素材などを活用した指導例

◆第1学年の指導例

本単元の趣旨及び単元構成の意図など

平成22年度全国学力・学習状況調査の中学校国語では、基礎的・基本的な知識・技能を活用することができるかをみるB問題での課題が明確になった。この結果を踏まえ、様々な資料の表現の仕方をとらえて読むことや資料の提示の仕方を工夫して説明することといった学習を充実することが今後一層必要であると思われる。

本単元は、新聞記事を中心に複数の資料から読み取ったことを関連付けて説明する活動を通して、説明する際の効果的な図表の使い方について考えることをねらいとしている。図表が文章のどの部分と関連しているのかを確認し、伝えたい事実や事柄を的確に記述する力の育成を目指したい。

- 1 単元名 図表を用いて効果的に説明しよう (指導する領域：B書くこと(1)エ)
教材名 「清流復活へ 大和川の挑戦」(奈良新聞 平成21年1月29日(木) 朝刊1面)

2 単元の目標

- 図表を用いた説明の効果などを考え、進んで文章を書こうとする。
(国語への関心・意欲・態度)
- 文章と図表との関連を考えながら、書いた文章を読み返し、表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、読みやすく分かりやすい文章にする。
(書くこと)
- 図表を説明するときに指示語や接続詞を適切に使用する。
(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

3 指導のポイント

(1) 学習素材について

奈良新聞に掲載されていた「清流復活へ 大和川の挑戦」という記事を中心教材として使用する。県内を流れる一級河川の大和川は、水質調査で平成19年度まで3年連続ワーストワンとなっていたが、様々な取組の結果、水質が改善されてきている。この記事には、全国河川ランキングの結果、水質汚染の原因、水質改善に向けての取組などの文字情報がたくさん含まれている。さらに複数の資料から得た図表などの視覚的な情報と合わせて、大和川の水質汚染の状況、水質改善に向けての取組、現在の状況などについてまとめて説明する文章を書く。その際、文章と図表の関連を意識して、読みやすく分かりやすい文章にすることをねらいとする。



奈良新聞 平成21年1月29日(木) 朝刊1面

本単元では新聞記事を教材として用いているが、新聞は目的に応じて文章を読んだり、ものの見方や考え方を広げていくための手立てとしても有効である。また、生徒の読書生活を豊かにすることができ、自己を向上させようとする態度を養う面からも重要である。

(2) 指導上の工夫

本単元では、生徒自ら情報を集めることには重点をおいていないため、用いる資料については、事前に指導者が準備する。生徒は、用意された資料の中から必要な情報を抽出し、図表を効果的に用いて、説明する文章を書くことに主眼をおく学習を意図した。

また、書いた文章を発表する場を設定し、用いた図表が説明に当たり効果的であるかどうかを相互に確かめ合うようにした。

(3) 他教科等との関連

社会科の地理的分野の学習と関連させ、地域の特徴や課題をとらえさせることも可能である。

4 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	書く能力	言語についての知識・理解・技能
・図表を用いた説明の効果などを考え、進んで文章を書こうとしている。	・説明と図表などが対応しているか、図表が説明の助けとなっているかを確かめ、読みやすく分かりやすい文章にしている。	・図表を説明するときに指示語を工夫したり、接続詞を使ったりしている。

5 単元の学習計画 (全4時間)

次	時	学 習 活 動	指導上の留意点	備考
一	①	<ul style="list-style-type: none"> ・大和川について書かれた新聞記事のコピーを読んで、感想を発表し合う。 ・大和川の水質に関する資料を見て、水質の推移や汚染の原因、水質改善のための取組、現在の水質などを知る。 ・「大和川」について新聞記事に書かれていたことや図表などから読み取った内容をまとめ、説明文を書くことを知り、学習の見通しを立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの身近に流れる河川が汚染されているということから、関心を高める。 ・新聞記事とグラフなどの図表と合わせると、より分かりやすいことに気付かせる。 ・新聞に書かれていたことを単に写すのではなく、記事を参考に他の資料と関連付け、自分で文章を書くことを理解させる。 	新聞記事 図表等を集めた資料プリント
二	②	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞記事の見出しをヒントに、説明文のタイトルを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「水質の推移」「汚染の原因」「水質改善のための取 	ワークシート

		・説明文を書く。	組」「現在の状況」などの観点で原稿を構成させる。	
	③	・効果的な図表を作成したり、引用したりして文章を整える。	・図表を貼る位置や、見出し、図表の解説などが適切であるかを考えさせる。	のり、はさみ
三	④	・交流する。 ・感想を書く。	・「大和川」についての説明文を交換して読み合い、分かりやすい説明であるか、図表は効果的に用いられているかなど、具体的に感想を交流させる。	感想用紙

(参考文献・資料)

- ・大和川清流復活ネットワーク (<http://www.yamato-river.net/pdf/976444468.pdf>)
- ・平成21年全国一級河川の水質現況(速報版)
(http://www.mlit.go.jp/river/toukei_chousa/kankyo/kankyousuisitu/h220729/s02.pdf)
- ・平成21年全国一級河川の水質現況の公表について
(http://www.mlit.go.jp/report/press/river03_hh_000251.html)
添付資料一覧
(http://www.mlit.go.jp/river/toukei_chousa/kankyo/kankyousuisitu/h220729/s01.pdf)

◆第1学年の指導例

本単元の趣旨及び単元構成の意図など

奈良県は、多くの著名人に愛されており、志賀直哉もその一人である。本単元では、その志賀直哉の随筆を教材として、生徒のものの見方や考え方を広げたり、深めたりするとともに、郷土に対する愛着を深め、郷土奈良を愛する心を育てることをねらいとしている。

1 単元名 随筆「奈良」を紹介しよう (指導する領域：C読むこと(1)オ)

教材名 「奈良」(出典：『志賀直哉随筆集』岩波文庫)

2 単元目標

- 文章に表れた筆者の考えに興味をもち、進んで紹介しようとする。
(国語への関心・意欲・態度)
- 文章に表れているものの見方や考え方について必要に応じて引用して紹介し、自分のものの見方や考え方を広くする。
(読むこと)
- 様々な語句について理解を深め、文章中の語彙について関心をもつ。
(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

3 指導のポイント

(1) 学習素材について

奈良に居を構えていたことのある志賀直哉の随筆「奈良」は、当時の生活の様子や、筆者の感じ方や考え方などが鮮明に描かれた、味わい深い作品である。今回は第1学年の教材と

して用いるので詳細な読み取りはせずに、筆者が奈良についてどのように感じていたのか、好意的な点とそうでない点に焦点を絞って読み取らせる。筆者の感じ方や考え方をとらえながら、自分の奈良についての感じ方と比較させ、最終的に随筆「奈良」を紹介する活動を設定する。

筆者のものの見方や考え方に触れ、自らの感じ方や考え方を広げさせるとともに、筆者が約10年間、奈良に住んでいた事実やその理由を知ることによって郷土奈良の魅力を再発見させ、生徒の郷土奈良への愛着をさらに深めさせたいと考える。

(2) 指導上の工夫

筆者が当時住んでいた家や家族の写真などを資料として提示し、筆者に親しみを感じさせるよう工夫する。

教材については、難解な語句について注を示したり、未習の漢字には読み仮名をふったりするなどの手立てを行い、生徒が抵抗なく読めるように配慮する。

(3) 取り扱う言語活動

引用して紹介する言語活動を通して、筆者の「奈良」に対する感じ方、考え方に共感したり疑問をもったりして自分の考えを広めることをねらいとする。

4 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
・課題に沿って文章を読み、その内容を進んで紹介しようとしている。	・「奈良」に表れているものの見方や考え方について、共感したり疑問をもったりして自分の考えを広げ、「奈良」を紹介している。	・文章を読んで意味の分からない語句を国語辞典等で調べ、文脈上の意味を考えている。

5 単元の学習計画 (全4時間)

次	時	学 習 活 動	指導上の留意点	備考
一	①	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の見通しをもつ。 ・資料を参考にして、志賀直哉が暮らしていた家や周辺の様子などを知る。 ・「奈良」を通読して、内容の大体を知る。 ・文章中の難解語句について確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・最終的に「奈良」を紹介することを予告し、学習に対する関心を高める。 ・「奈良」への関心が高まるよう、プリントや掲示資料などを用いて、簡単に説明する。 ・難解な語句や表現について確認する。 	資料 プリント

	課外	・志賀直哉について調べる。	・インターネットや書籍などで、筆者について情報を集めさせておく。	
	②	・筆者の奈良に対する感じ方で、好意的な点、好意的でない点を読み取る。 ・筆者の感じ方、考え方に共感できる点、共感できない点をワークシートに記入させる。	・筆者が好意的に受け止めている部分とそうでない部分を区別して線を引かせる。 ・筆者の感じ方、考え方を知り、自分の考えと比較させる。共感できない点については、なぜ共感できないのか理由も書かせる。 ・事前に収集した情報から、筆者がなぜそのように感じるのか推論させる。	ワークシート
二	③	・次の点に注意して、随筆「奈良」を紹介する文章を書く。 ア 紹介文の構成 イ 引用部分 ウ 自分の考え ・グループで読み合い、互いに意見交換して推敲する。	・「奈良」に表れている筆者のものの見方、考え方について、文章を適切に引用しながら紹介させる。 ・自分の考えが明確に伝わるよう構成を考えさせる。	ワークシート
三	④	・交流して、感想を述べ合う。	・郷土「奈良」について考えたこと、感じたことを中心に感想を書かせる。	感想用紙

〈参考文献・資料〉

- ・「志賀直哉随筆集」 高橋英夫 編 岩波文庫
- ・春日野奈良観光 志賀直哉旧居 (<http://www.kasugano.com/kankou/shiganaoya/>)
- ・志賀直哉旧居 (<http://www.burari2161.fc2.com/siganaoyakyuukyo.html>)

◆第2学年の指導例

本単元の趣旨及び単元構成の意図など

奈良を舞台とする落語を教材として取り上げ、郷土に関係の深い人物や時代背景等に関心をもちながら、古典の世界を楽しむことをねらいとしている。落語という我が国の伝統的な言語文化に親しみ、郷土奈良の歴史を知り、郷土に対する愛着を深めさせるとともに、生涯にわたって読書する態度の育成につながることを期待している。

- 1 単元名 奈良の落語を楽しんで演じてみよう (指導する領域：C読むこと(1)イ)
教材名 「鹿政談」 (出典：『古典落語体系 第1巻』)

2 単元の見目

- 奈良に関する落語に関心をもち、楽しんで演じようとする。(国語への関心・意欲・態度)
- 作品全体と部分との関係、登場人物の言動の意味を考え、内容理解に役立てる。

(読むこと)

- 作品の特徴を生かして演じ、古典の世界を楽しむ。

(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

3 指導のポイント

(1) 学習素材について

本単元では、郷土に対する愛着を深める一つの契機となるよう、奈良で親しみのある動物である「鹿」の登場する落語を教材とした。

この作品は、本来なら鹿を殺すと死刑になるところ、時の奈良町奉行が、お上からの鹿の餌料の横領を取り調べると迫ることで、そうした理不尽な話を覆す内容である。ここに登場する奈良町奉行は諸説あり、どの人物であるのか確定をみないが、こうした名奉行といわれる人物がかって奈良に存在したことを知り、内容を理解しながら楽しんでこの作品を演じさせるのがねらいである。

元は上方落語であったが、東京で興行されたこともあり、登場する奈良町奉行は実際には奈良に実在しなかった人物で演じられる場合がある。作中の登場人物、故意に鹿を死に至らしめたのではない民に対して名裁きを下す奉行は、人物設定としては名のある奉行であればだれでもよいのであろう。要は、それほど人情をくみ、古くからある因習を打破する名裁きであったということである。様々に趣向が凝らされた落語ならではの表現を理解しながら実際に演じてみることで古典に触れる面白さを味わうことができる。現代の生活には馴染みのない言葉には説明も必要であるが、言葉のもつ響きや登場する人物を想像しながら演じることを楽しませたい。

(2) 指導上の工夫

導入で、落語の実際の興行を映像で見せてもよいし、指導者が演じても面白い。当時の奈良において「鹿」がどのような存在であったのか、実在する「鹿」にまつわる話や遺跡を紹介したり、奈良※注の生活習慣、人々の暮らしについて説明を加えたりしながら楽しみたい。


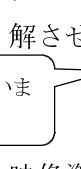
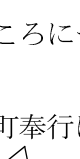
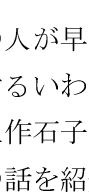
(3) 他教科との関連



第2学年では、社会科において歴史的分野を学ぶ機会も多い。この作品に出会うことで、郷土奈良にさらに愛着をもち、実在した歴史的な人物や時代背景など歴史的事実を自ら調べる学習に発展させていくことも可能である。

4 単元の評価規準


国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
・奈良に関する落語に関心をもち、楽しんで演じようとしている。	・作品全体と部分との関係、登場人物の言動の意味を考え、内容理解に役立っている。	・作品の特徴を生かして演じ、古典の世界を楽しんでいる。

5 単元の学習計画 (全3時間)

次	時	学 習 活 動	指導上の留意点	備考
一	①	<ul style="list-style-type: none"> ・奈良に関係のある作品を取り上げて学習することを知り、学習の見通しをもつ。  <p>奈良といえば鹿だね!</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昔の奈良について、現代の生活との違いやその名残、「鹿」と人との関係について知る。 <ul style="list-style-type: none"> ・奈良で親しまれている「鹿」にまつわる落語を鑑賞する。 ・気付いたこと、感じたことを自由に発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・郷土奈良を代表する動物を想起させ、それにまつわる作品を教材に学習することやこの単元の目標を知らせる。 ・当時の奈良の人々の暮らしや「鹿」に対する扱いについて紹介したり、あらかじめ説明が必要な作中の語句について解説したりして理解させる。 ・映像資料や指導者の実演により作品を鑑賞させる。 ・疑問点や気付いたこと、感じたことを発表させる。  <p>昔は鹿が手厚く保護されていました。</p> <p>鹿を傷つけると命にかかわったんだなあ!!</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・奈良の人が早起きをするいわれを「三作石子詰め」の話を紹介するなど具体例を挙げて興味をもたせる。
二	②	<ul style="list-style-type: none"> ・作品の面白いところについて出し合う。 ・登場人物の奈良町奉行について考える。 <p>当時は鹿を殺すと死刑になっていたけど、この奈良町奉行はどんな裁きをしたのかな?</p> <p>このほか、奈良町奉行には川路としあきらという人物もいました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・台本を見ながら演じる練習をする。  <p>むかしから、奈良の名物一大仏に、鹿の巻筆、奈良ざらし、春日灯籠、町の早起き、奈良茶、奈良漬、奈良茶がゆ・・・なんてことを申しますが……。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・どこがこの作品の面白いところか考えさせる。 ・名裁きとされる由縁^{ゆえん}を考えさせる。 ・登場人物を想像させながら班で練習させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・^{かけことば}掛詞などの技法にみられる言葉の面白さ以外にもこの作品の主眼となるところに着目させる。 ・歴史上の人物を紹介し、興味をもたせる。
三	③	<ul style="list-style-type: none"> ・班の代表を決め、気に入った部 	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しんで演じさせる。聞き 	<ul style="list-style-type: none"> ・班で代表を決め

	<p>分を選んで学級全体の場で演じる。</p> <ul style="list-style-type: none"> それぞれのよいところを発表する。  <p>登場人物になりきって演じていたよ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習後の感想を書く。 	<p>手は、演技方についてよいところを見付けながら聞かせる。</p>  <p>奈良について、新しく知ったこと、もっと知りたいと思ったことはどんなことですか？</p> <ul style="list-style-type: none"> 感想とともに今後さらに調べてみたいことや今回の学習で分かったことなどを書かせる。 	<p>させる。</p>
--	--	--	-------------

6 本時の展開 (2 / 3)

	生徒の活動	指導者の活動	指導上の留意点
<p>1</p> <ul style="list-style-type: none"> 本時の目標を確認する。 <p>2</p> <ul style="list-style-type: none"> 作品の面白いところを発表する。  <p>大罪がどう裁かれるのか、ドキドキしたよ。</p>		<ul style="list-style-type: none"> 奈良町奉行の名裁きに視点がいくように助言する。 なぜお裁きの場で、訴えた者の立場が悪くなっていくのか考えられるようにする。 	
<p>3</p> <ul style="list-style-type: none"> 登場人物はどのような人物であるのか考える。 <p>4</p> <ul style="list-style-type: none"> 登場人物が他の場合もあることを知る。 <p>5</p> <ul style="list-style-type: none"> 台本を見ながら演じる練習を班で行う。 		<ul style="list-style-type: none"> 名裁きたる由縁について考えられるような助言をする。 この演目は、奈良町奉行が実在の人物以外の名奉行といわれた人物で語られる場合があることを知らせる。 奈良に実在した名奉行といわれる人を紹介する。 	<p>奈良町奉行の川路としあきは、現在の奈良の町を彩る桜などの植樹をしたり、古くからのよくない慣習を改めたりした名奉行だったのです。</p> <ul style="list-style-type: none"> 奈良の環境を整備した川路としあきらなどを紹介する。

※注「奈良の生活習慣、人々の暮らし」【奈良の人が早起きの理由】

江戸時代の伝説に、三作という子どもがあやまって鹿を殺した罪で石子詰になったというものがある。奈良の人が早起きなのは、自分の家の前で鹿が死んでいたら厳罰に処せられるため、家の前に鹿が倒れていないか朝早く確認し、もしそのようなことがあったなら、鹿を他のところへ移動させなければならないからだという説がある。

〈参考文献・資料〉

- ・「古典落語体系 第1巻」 江國 滋 他・編 株式会社三一書房 1969
- ・「奈良の昔話『奈良町編』」 増尾正子・著 株式会社ブレーンセンター 2003

- ・「奈良の昔話 その四」 増尾正子・著 株式会社ブレーンセンター 2009
- ・「ぶらり奈良町 2001年春号」 宇多滋樹 他・編 ならまち文庫 2001

◆第2学年の指導例

本単元の趣旨及び単元構成の意図など

本単元では、職場体験で幼稚園へ行き、園児に昔話を朗読する際に持っていく昔話リストを作成する設定で昔話を分類する学習を取り上げた。グループで話し合いながら根拠を明確にして分類することは、物事を論理的に考えるための一つの手段になると考える。郷土に伝わる口伝での昔話も交えながら分類を試み、話の内容に表れたものの見方や考え方を先人の教えとして理解を深めることもねらいとしている。

1 単元名 昔話を分類して昔話リストを作ろう
(指導する事項：伝統的な言語文化に関する事項イ)

2 単元の見どころ

- 昔話を楽しんで分類しようとしている。(国語への関心・意欲・態度)
- 昔話に表れたものの見方や考え方に触れ、作者の思いなどを想像する。
(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

3 指導のポイント

(1) 学習素材について

本単元は、生徒それぞれの知識を分類する学習になる。幼少時から伝え聞いたり、読んだりしてきた昔話をグループで出し合い、楽しみながら論理的に物事を考えることを学ばせたい。

昔話の内容に驚きや面白さを感じた幼少時とは異なり、物事を客観的に判断できるようになってくるこの時期に、すでに知っている昔話を改めて分類するという活動を通して理解を深めさせ、論理的な思考力を育てるのがねらいである。また、単独での分類作業ではなく、グループで昔話を出し合い、分類を考える学習形態をとることで、様々なものの見方や考え方を交流し、視野を広げていくことも期待できる。

(2) 指導上の工夫

4名程度のグループをつくり、学習形態の上でも話し合いをしやすくすることが肝要である。活発かつ率直に意見交流できる環境づくりをすることは、学習の質を高めることにつながる。

互いに知っている昔話を出し合い、昔話のもつ特徴や内容、伝承に秘められた作者の思いや伝えてきた人々の思いを改めて感じられるようにする。



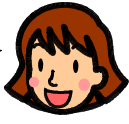

(3) 他教科等との関連




社会科と関連させて、話題に上る地名の地理的な位置を確認し、その分布を視覚的に示し確認することも可能である。昔話の背景にどのような地域の生活や習慣があるのかを調べることも、昔話を違った角度から読み深めることにつながる。また、動物などが登場する話では、理科との関連において、その習性や特徴を思い出させるなどして、より豊かな読みにつなげることも可能である。

4 単元の評価規準

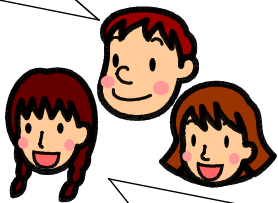
国語への関心・意欲・態度	言語についての知識・理解・技能
・昔話を楽しんで分類しようとしている。	・昔話に表れたものの見方や考え方に触れ、作者の思いなどを想像している。

5 単元の学習計画 (全3時間)

次	時	学 習 活 動	指導上の留意点	備考
一	①	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の目標や見通しをもつ。  <p>職場体験学習で幼稚園に行くときに、昔話のリストがあれば、読んであげるときに迷わなくていいよね。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・班の形になって、今までに知っている昔話を出し合う。  <p>小さいころに、いろんな昔話を聞いたり、絵本を読んだりしたなあ。「桃太郎」や「浦島太郎」など、思い出すなあ…。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の目標を伝え、見通しをもたせる。 ・できる限り多くの昔話が出るように助言し、ワークシートに記入させる。 	・ワークシート
二	②	<ul style="list-style-type: none"> ・班で出し合った昔話を分類する。 <p>どんなふうに分類しようかな？ 「おもしろい話」「怖い話」「動物の話」……「地名の由来の話」というのもできるよね。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・分類する根拠となる基準を明確にさせる。 <p>幼稚園のある地名の由来を語る昔話なら興味をもってくれるかなあ。</p>	・昔話の分類については諸説あるが、既存のものによらず、根拠をもって考えさせる。
三	③	<ul style="list-style-type: none"> ・班の代表者により分類を発表する。 <p>私の班は聞いた人の印象を基準に、「笑い話」「怖い話」というように分類しました。</p>  <p>僕の班は登場人物に基準をおいて、「英雄の話」「動物の話」という分類を考えました。</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・各班の発表を聞きながらワークシートを記入し、それぞれの分類の仕方について比較する。 ・全ての発表が終わり、同じ昔話 	<ul style="list-style-type: none"> ・各班の分類を、分類の根拠に着目して聞かせる。 また、ワークシートに記入し、各班の分類について比較しながら聞かせる。 <p>発表を聞くと、班によって同じ話でも分類が同じでないことが分かるな。</p>	・ワークシート
			・同じ昔話を取り上げている	

	<p>を扱っているところについて、どの班が最も適切な分類をしているか考える。</p>	<p>場合、分類を比較し、根拠や分類の妥当性を考えさせる。</p>	
<p>「桃太郎」の話は、どの班も挙げていたけど、「英雄の話」「鬼が出てくる話」「正義が勝つ話」など、それぞれ違った基準で分類されていたなあ。</p>		<p>読み聞かせをする昔話を選ぶときの分類という点ではどうかな？</p>	
<p>・この学習の感想を書く。</p>		<p>園児に分かりやすい分類という点ではどうかな？</p>	
<p>分類の仕方もあるんだなあ。根拠付けながら分類するのはおもしろかったよ。</p> 	<p>・感想とともに今後さらに調べてみたいことや今回の学習で分かったことなどを書かせる。</p>		

6 本時の展開 (2 / 3)

	生徒の活動	指導者の活動	指導上の留意点
1 2	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の目標を確認する。 ・班ごとに、出し合った昔話について分析をし、分類する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・根拠を明確にして、前の時間に出し合った昔話を分類することを知らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・分類の根拠を明確することを強調し、分類基準を班単位で決めさせ、意識化させる。
	<p>話の内容を分析して、基準をはっきりさせることが大事だけど、分類の目的も大事だと思うな。</p> 		
		<ul style="list-style-type: none"> ・意見が分かれる場合は、根拠に説得力のある方に決めるよう助言する。 	
	<p>そうね。幼稚園で自分が昔話を選ぶときに必要な分類なのか、園児のリクエストを聞くための分類なのかでも変わってくるよね。</p>		
3 4	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに記入しながらそれぞれの昔話の内容を分析し、分類を進める。 ・出し合った昔話の分類を完成させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各班の分類を次回発表し合う際、同じ昔話がある場合は、どのように分類されているか比較しながら聞き、どちらの分類が妥当であるか考えることを予告する。 	

〈参考文献・資料〉

- ・「読みがたり 奈良のむかし話」 奈良のむかし話研究会・編 株式会社日本標準 1977
- ・「奈良の伝説」 奈良の伝説研究会・編 株式会社日本標準 1980

◆第3学年の指導例

本単元の趣旨及び単元構成の意図など

私たちの住んでいる奈良は、豊かな自然と世界に誇る数多くの文化遺産を有している。また、近世から明治・大正・昭和にかけて、多くの時代を代表する人物が、奈良の豊かな自然とそこに住む人々が育んできた伝統文化を愛してきた。まさに、奈良は、万葉のふるさとであり、日本人の心の故郷である。

本単元では、そのような万葉のふるさと「奈良」をテーマにした詩歌とその紹介文をモデルとして学習し、「奈良」の文学ガイドを編集することで、自分の考えや感じ方を広げたり深めたりすることをねらいとした。自分たちが生活している奈良を、作家がどのように感じ、愛し続けてきたかを知ることによって、改めて「奈良」を見つめ直し、我が国の言語文化や伝統について関心を深め、継承・発展させようとする態度の育成を図りたいと考えた。

1 単元名 「奈良」の文学ガイドを作ろう (指導する領域：B書くこと(1)イ)

2 単元の目標

- 奈良をテーマにした詩歌を中心に、奈良に対する作家たちの考え方に触れ、自分の考えを深めようとする。 (国語への関心・意欲・態度)
- 奈良をテーマにした詩歌について自分の考えを深め、適切な資料を引用するなどして、文学ガイドの構成を考える。 (書くこと)
- 歴史的背景などに注意して古典を読み、その世界に親しむ。 (伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

3 指導のポイント

(1) 学習素材について

本単元『奈良』の文学ガイドを作ろうは、万葉のふるさと「奈良」をテーマにした詩歌とその紹介文をモデルとして学習し、「奈良」の文学ガイドを編集することで、自分の考えや感じ方を広げたり深めたりすることをねらいとしている。自分たちが生活している奈良を、作家がどのように感じ、愛し続けてきたかを知ることによって、改めて奈良を見つめ直し、我が国の言語文化や伝統について関心を深め、継承・発展させようとする態度の育成を図りたい。

〈小学校での学習との関連〉

「伝統的な言語文化に関する事項」には、小学校第3学年及び第4学年で「易しい文語調の短歌や俳句について、情景を思い浮かべたり、リズムを感じ取りながら音読や暗唱をしたりすること」がある。この指導に当たっては、本県に縁の『万葉集』の和歌(短歌)を教材として用いることが、より児童の関心を高めるためには効果的である。奈良の各地に『万葉集』の歌碑があるなどの利点を生かして、伝統的な言語文化に親しませることができる。

本単元では、小学校で出会った『万葉集』の和歌も取り上げつつ、近世、近代の作家と作品を中心とした文学ガイドを作成する。

(2) 指導上の工夫

指導に当たっては、奈良をテーマとした詩歌とその紹介文を用いることで、この学習への生徒の興味・関心を高めるようにする。生徒が奈良を再発見できるよう、『万葉集』にある奈良を詠んだ和歌やその情景を想起させるとともに、近代へ続く作家たちが愛してやまない奈良への思いを、紹介文からじっくり読み取らせたい。


次に、紹介文をモデルとして、紙面構成の工夫についてグループで話し合わせ、奈良の文学ガイドを作成させる。その際、文学ガイドに必要な条件を考えさせ、準備した資料(作家

紹介や他の作品・エピソードなど) と紹介文のモデルを参考に、自分たちのガイドを作成できるようにする。模造紙などにまとめるほか、情報機器を活用して、写真やイラストを効果的に配置したり、レイアウトを工夫したりして読み手を引きつける文学ガイドを作成させたい。

4 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	書く能力	言語についての知識・理解・技能
・奈良をテーマにした詩歌に興味をもち、奈良に対する作家の考えに触れ、自分の考えを深めようとしている。	・奈良をテーマにした詩歌について、自分の考えを深め、適切な資料を引用するなどして、文学ガイドの構成を考えている。	・歴史的背景などに注意して作品を読み、その世界に親しんでいる。

5 単元の学習計画 (全3時間)

次	時	学 習 活 動	指導上の留意点	備考
一	①	<ul style="list-style-type: none"> ・『奈良』の文学ガイドを作ろう」の学習について、目標と見通しをもつ。 ・作家とその詩歌を紹介したモデル文を読み、あらましを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・『万葉集』の和歌の学習を想起させる。 ・詩歌と紹介文のモデルから、「奈良」に縁のある作家の考えや気持ちに触れさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマが奈良であることに、着目できるように、なじみある『万葉集』の短歌のほかに、地図等を用意する。
	②	<ul style="list-style-type: none"> ・「奈良」の文学ガイドに取り上げる作家を選び、紙面構成を考える。 ・紹介文のモデルから、編集の工夫や効果、タイトルの付け方などについて、アイデアを出し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・詩歌の紹介文をどのように構成すれば、読み手を引き付けるものになるのか、グループでガイド編集の工夫を考えさせる。 ・全体の構成や資料の適切な引用について、モデル文を参考に話し合わせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート
二	③	<ul style="list-style-type: none"> ・紹介文のモデルと話し合った意見をもとに、文学ガイドに必要な条件を満たした「奈良」の文学ガイドを作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・読み手を意識した編集を工夫させるとともに、「奈良」の文学ガイドとしてふさわしい内容構成になるよう注意させる。 	模造紙 情報機器 など 

6 本時の展開 (2/3)

	生徒の活動	指導者の活動	指導上の留意点

1	・本時のめあてを確認する。		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> 奈良の詩歌とその紹介文から、読み手を引きつける編集の工夫を考えよう。 </div>			
2	・グループで、「奈良」の文学ガイドに取り上げる作家・作品を選ぶ。	・複数の関連する資料を用意し、比較検討できるようにする。	・モデルとなる詩歌の紹介文が、どのように編集されているか、タイトルの付け方、編集の工夫とその効果などについて、意見を出させる。
3	・詩歌の紹介文の編集の仕方について話し合い、紙面構成を考える。	・話し合った編集の工夫と、資料の作家のエピソードや他の作品をもとに、紙面構成を考えさせる。	

<紹介文のモデル例>



東大寺

大仏の荘麗さを、見事に歌いあげている。歌碑は、東大寺南大門左手奥に建てられている。

奈良の「ふるきほとけ」と八一

毎年、八月十五日、奈良の東大寺で、開かれる万燈供養。殿がな流経が流れる中、大仏殿の観相窓(※)が開き、虚空那仏の顔が現れる。

「おほきほとけ」とは、三千世界に遍満する東大寺の虚空那仏。つまり、大仏様のことを指す。「もろて」は、両手のことである。「あまたらしたり」とは、「天足らす」「充実す」という意味である。八一は、東大寺で「その明るさ、大きさ、そして久しに心打たれた」と『東大寺随想』という随筆で述べている。「大きくゆたかに両手の指をお聞きになって、この大仏は、宇宙に広く満ち広がっておられる」と。

大仏の荘麗さを、見事に歌いあげている。歌碑は、東大寺南大門左手奥に建てられている。

会津 八一 あいず やいち

おほらかに もろてのゆびを ひらかせて
おほきほとけは あまたらしけり
ちかづきて あんぎみれども みほとけの
みせなはずとも あらぬさびしさ

※ 観相窓
|| 人の容貌や骨格を見て、その性質を判断する窓。



新薬師寺

「ちかづきて」の歌のみほとけは、新薬師寺の「香薬師像」を指す。「みせなはず」は、見るの尊敬語で、「ごらんになるの意味。八一が、香薬師像に、身を寄せてこうして仰き見ているのに、まるで自分を無視しているかのよう^{いにしえ}に思えて寂しい、と嘆いているのである。

八一は、自分を無視しているかのように見えて「さびしい」と表現しているが自著の解説で、「あうつとりとした、特有の目つきからも来である」と書いている。香薬師の目そのものの「さびしさ」でもあると言っている。ここから、もう少し広義な意味での「さびしさ」寂寥感を歌い上げたと言ってもいい。

この仏像は三度の盗難に会い、今は見ることも出来ないが作者自身が「自筆の碑は、今は空しくその堂の前に立てり」と述べているように本堂西に八一の教ある石碑の最初として置かれている。

(参考文献・資料)

- ・「中学生の読書指導 読書生活者を育てる」安居 總子 東京都中学校青年国語研究会編著 2005
- ・「月刊 大和路ならら 2003. 1月号」 地域情報ネットワーク 2003

◆第3学年の指導例

本単元の趣旨及び単元構成の意図など

本単元では、「奈良」を舞台にした芭蕉の俳句を活用して、奈良を愛した古^{いにしえ}の人々の考えに触れ、自分の考えや感じ方を広げたり深めたりすることをねらいとした。芭蕉が、奈良を、どんな思いで訪ねてきたのかを知ることによって、奈良を身近に感じ、古典について関心を深め、伝統文化を継承・発展させようとする態度の育成を図りたいと考えた。

- 1 単元名 芭蕉と奈良大和路 (指導する領域：C読むこと(1)エ)
 ※ 教科書教材「おくのほそ道」の関連教材として学習する。

2 単元の見方

- 芭蕉が奈良を訪れた際に詠んだ奈良の俳句を鑑賞し、奈良に対する芭蕉の思いに触れ、自分の考えや感じ方を広げたり深めたりしようとする。 (国語への関心・意欲・態度)
- 芭蕉の俳句の情景を思い浮かべ、俳句に込められた作者のものの見方や感じ方をとらえるとともに、表現意図を考える。 (読むこと)
- 俳句に用いられている表現形式や技法を理解し、語感を磨き、語彙を豊かにする。 (伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

3 指導のポイント

(1) 学習素材について

本単元「芭蕉と奈良大和路」は、松尾芭蕉が晩年、「おくのほそ道」の旅に出る前に、奈良を訪れた際に詠んだ俳句の鑑賞を通して、芭蕉の見た奈良をたどり、芭蕉が奈良をどのように感じたかを想像するとともに、改めて郷土奈良を見つめ、自分の考えや感じ方を広げたり深めたりすることをねらいとしている。俳句の鑑賞を通して、我が国の伝統的な言語文化やについて関心を深め、継承・発展させようとする態度の育成を図りたい。

(2) 指導上の工夫

指導に当たっては、教科書教材「おくのほそ道」の学習後に、関連教材として学習させることとする。生徒は、「おくのほそ道」の学習で、芭蕉の旅(人生)に対する考え方を知り、紀行文や俳句に込められた芭蕉の心情を読み取っている。旅の中に人生を求め、全国を巡った松尾芭蕉は、あこがれ尊敬していた歌人の西行らの足跡をたどるために奈良を訪れたと言われている。芭蕉が、どのような場所でどんなことを感じたのか、芭蕉の心情を考える一つの手立てとして、俳句の一部を空欄にして、俳句に込められた芭蕉の思いや表現意図について考えさせ、表現の工夫や効果を読み取らせたいと考える。

4 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
・芭蕉が奈良を訪れた際に詠んだ俳句を鑑賞し、奈良に対する芭蕉の思いに触れ、自分の考えや感じ方を広げたり深めたりしようとしている。	・芭蕉の俳句の情景を思い浮かべ、俳句に込められた芭蕉のものの見方や感じ方をとらえている。	・俳句に用いられている表現形式や技法を理解し、語感を磨き、語彙を豊かにしている。

5 単元の学習計画 (全3時間)

次	時	学習活動	指導上の留意点	備考
一	①	・「芭蕉と奈良大和路」の学習について、目標と見通しをもつ。 ・プリント「芭蕉の俳句と奈良」を読んで、芭蕉の俳句のあらましを知る。	・奈良を舞台にした芭蕉の俳句を読ませ、芭蕉の考えや気持ちに触れさせる。	・芭蕉の俳句の歴史的な背景などに注意して読み、その世界に親しませることができる資料を用意する。

	②	<ul style="list-style-type: none"> 芭蕉の大和路俳句を鑑賞し、句に描かれた情景、句に込められた芭蕉の思いを考える。 芭蕉の大和路俳句の空欄に当てはまる言葉を、解説文などを参考にして考え、理由をまとめる。 自分の考えた言葉と実際の芭蕉の俳句の表現を比べ、芭蕉の表現意図を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 鑑賞の際のポイントを示し、解説文を参考にして、芭蕉の俳句を読み味わわせる。 芭蕉になったつもりで、芭蕉の大和路俳句を完成させる。 	地図 行程表 写真
二	③	<ul style="list-style-type: none"> 教科書教材「おくのほそ道」の学習と関連教材の芭蕉の俳句を鑑賞して、感じたことを800字程度の文章にまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「おくのほそ道」で学習した芭蕉の考え方と、「奈良」に対する芭蕉の思いを比較しながら、感じたことをまとめさせる。 	

6 本時の展開 (2 / 3)

	生徒の活動	指導者の活動	指導上の留意点
1	<ul style="list-style-type: none"> 本時のめあてを確認する。 		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> 芭蕉はどのように奈良を詠んだのか？～大和路俳句から考えよう。 </div>			
2	<ul style="list-style-type: none"> 俳句を鑑賞する際のポイントを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> プリントを用いて、俳句を鑑賞するポイントを解説する。 	<ul style="list-style-type: none"> どの生徒にも比較的理解しやすい芭蕉の大和路俳句を3句鑑賞させ、芭蕉の思いを想像させる。 芭蕉が奈良を訪れた際の行程、地図、俳句の詠まれた場所の写真などを用意し、想像しやすくする。
3	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの俳句の情景を想像し、芭蕉の思いを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 俳句が詠まれた場所、芭蕉の状況について情報提供する。 	
<div style="border: 2px solid black; padding: 10px; margin: 10px auto;"> <p>三年国語学習プリント</p> <p>芭蕉の俳句と奈良</p> <p>晩年、「おくのほそ道」の旅に出る前に、芭蕉は奈良を訪れている。その時に詠んだ俳句の鑑賞を通して芭蕉の見た奈良を知り、どのように感じたかを考えてみよう。</p> <p style="text-align: center;">ななへしちどうがらんやへ</p> <p>1 奈良七重七堂伽藍八重ざくら</p> <p>2 菊の香や奈良にはふるき仏達</p> <p>3 びいと啼く尻聲悲し夜の鹿</p> </div>			
4	<ul style="list-style-type: none"> 芭蕉の大和路俳句の空欄に当てはまる言葉を、解説文などを参考にして考え、その理由をまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 今までに鑑賞した芭蕉の俳句をもとに、空欄に入る言葉を考えるよう指導する。 	

	<p>☆実際の芭蕉俳句の表現との比較・感想 理由 ☆当てはまる言葉（ ）</p>	<p>6 雲雀より空にやすらふ峠かな (詠まれた場所) 吉野町 細峠 (句意) 峠に登りついで「息入れる」と、雲雀()の音が下の方から聞こえる。いとも空を仰いで聞こられた雲雀よりも上に、自分は今、休んでいることよ。</p>	<p>☆実際の芭蕉俳句の表現との比較・感想 理由 ☆当てはまる言葉（ ）</p>	<p>5 水取やこもりの僧の香の音 (詠まれた場所) 東大寺二月堂 (句意) 二月堂のお水取りの行が行われる夜、水取りの僧が袈裟敷しい深夜の廊下を進む(音)「木々」()の音が、さえて聞こえてくることよ。</p>	<p>☆実際の芭蕉俳句の表現との比較・感想 理由 ☆当てはまる言葉（ ）</p>	<p>☆実際の芭蕉俳句の表現との比較・感想 理由 ☆当てはまる言葉（ ）</p> <p>4 露とくどく 試に浮世すがばや (詠まれた場所) 吉野西行庵近 (句意) 西行庵には清浄な露が今も「くどく」としてすくしてゐる。露のしただり落ちるしすくによつて、自分も俗世のありに汚れた心身を洗い清めたい。 ※ この句は、西行の歌「くどくく」(落つる谷間の音清水 くみほすは どもなき すまひかな)を踏まえてゐる。</p>
5	<p>・考えた言葉と実際の芭蕉の俳句の表現を比べ、芭蕉の表現意図を考える。芭蕉が、奈良の地を訪れた際の心情について、考える。</p>	<p>・「おくのほそ道」の旅との関連を国語科資料集等で確認させる。</p>	<p>・あこがれの西行への思いを想起させ、芭蕉の奈良に対する思いを考えさせる。</p>			

(参考文献・資料)

- ・「中学生の読書指導 読書生活者を育てる」安居 總子 東京都中学校青年国語研究会編著2005
- ・「月刊 大和路ならら 2007. 3月号」 地域情報ネットワーク 2007

◆第3学年の指導例

本単元の趣旨及び単元構成の意図など

日本語の特色の一つに、微妙な音の違いや様子、状態を表す擬音語・擬態語がある。日常生活の中で、擬音語・擬態語はさまざまな場面で使われ、会話や文章を生き生きとさせ、豊かにさせている。

本単元では、「擬音語・擬態語コラム」を読んで擬音語・擬態語の豊かな表現効果について知り、その解説文の書き方を学ぶ活動をする。その後、マンガの中にある擬音語・擬態語を導入として、文学作品や暮らしの中で使われている擬音語・擬態語に注目して、どんな効果や役割があるのかを考え文章にまとめて書く活動を設定した。

1 単元名 「擬音語・擬態語」が語るもの (指導する領域：B書くこと(1)イ)

2 単元目標

- 擬音語・擬態語のもつ効果について考え、論理の展開を工夫して説得力のある文章を書くとする。 (国語への関心・意欲・態度)
- 擬音語・擬態語のもつ効果について、論理の展開の仕方を工夫し説得力のある文章を書く。 (書くこと)
- 擬音語・擬態語などに関する知識を広げ、語感を磨き語彙を豊かにする。 (伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

3 指導のポイント

(1) 学習素材について

本単元『擬音語・擬態語』が語るもの」は、擬音語・擬態語のもつ表現効果に着目し、文学作品はもちろん、マンガや暮らしの中など日本人の生活の中に生きている擬音語・擬態語について、生徒に再認識させたいと考えて設定した。『暮らしのことば 擬音・擬態語辞典』（山口仲美 編、講談社）の中の「擬音語・擬態語コラム」を読んで、日常生活の中の擬音語・擬態語に興味をもち、コラムの文章を参考に、表現効果について解説する文章を書く活動を考えた。今回の学習では、マンガの中にある擬音語・擬態語を導入として、文学作品や暮らしの中で使われている擬音語・擬態語に注目させる。擬音語・擬態語には、どんな効果や役割があるのか考え文章にまとめさせることで、語感を磨き・語彙を豊かにさせたい。

(2) 指導上の工夫

指導に当たっては、まず、『暮らしのことば 擬音・擬態語辞典』編者の山口仲美さんのコラムを読み、擬音語・擬態語の表現効果、豊かさ・奥深さを体感させたい。次に、文学作品（詩歌作品）はもちろん身近にあるマンガやものの名前にも、擬音語・擬態語が効果的に使われていることに気付かせ、擬音語・擬態語に関する広く深い知識を生徒が身に付けられるよう工夫した。日本語の特色の一つである擬音語・擬態語が、会話や文章を生き生きと、そして豊かにさせていることに気付き、日常生活の中で擬音語・擬態語を効果的に使って、豊かに会話したり、文章を書いたりする力を身に付けさせたい。

4 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	書く能力	言語についての知識・理解・技能
・擬音語・擬態語のもつ効果について考え、論理の展開を工夫して説得力のある文章を書こうとしている。	・擬音語・擬態語のもつ効果について、論理の展開の仕方を工夫し、説得力のある文章を書いている。	・擬音語・擬態語などに関する知識を広げ、語感を磨き語彙を豊かにしている。

5 単元の学習計画（全4時間）

次	時	学 習 活 動	指導上の留意点	備考
一	①	・単元『擬音語・擬態語』が語るもの」について、目標と見通しをもつ。 ・「擬音語・擬態語コラム」を読んで、擬音語・擬態語のおもしろさを知る。	・擬音語・擬態語の効果や役割について理解し、その表現力の豊かさについて、理解させる。	・「擬音語・擬態語コラム」プリント
二	②	・マンガに使われている擬音語や擬態語には、どんな効果があるか考える。	・マンガに使われている擬音語・擬態語の表現効果を考えさせる。マンガの絵と擬音語・擬態語の組み合わせ、ひらがな・カタカナ、文字の大きさなど、表現効	・擬音語・擬態語の効果が分かるマンガを用意する。

		果を出し合う。	
③	<ul style="list-style-type: none"> 文学作品の中で使われる擬音語・擬態語を集め、どのように使われているか調べる。 擬音語・擬態語が使われている効果について、400字程度の文章にまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書教材の文学的文章、国語の資料集の詩歌などを参考にして、擬音語・擬態語がもたらす表現効果について考えさせ、自分の意見をまとめさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 国語科資料集
<p>解説文の例 <「握手」に見る擬音語・擬態語の効果 ></p> <p>「握手」(井上ひさし作)には、物語の随所に擬音語や擬態語が使われている。擬音語・擬態語を使用することで、読み手が登場人物の人柄や行動を、想像しやすくなるという効果がある。</p> <p>特に、主人公のルロイ修道士のしぐさに擬音語・擬態語が使われている。「そっと握手した」「彼の手のひらはもうギチギチとは鳴らない」「人差し指がぴんと伸びている」などがそれである。「そっと握手」するルロイ修道士。天使園のころの強く顔をしかめるような握手と全く違う様子に、ルロイ先生の体の変化を、感じさせる。「ギチギチ」から想像できるルロイのごつごつした手のひらの形、今は、もう農作業をしていない様子が、「ギチギチとは鳴らない」という表現で、伝わってくる。「ぴんと」に着目すると、ユーモアのあるルロイのしぐさが、目の前に浮かんでくる。</p> <p>擬音語・擬態語を使うことにより、主人公のルロイ修道士の声にならない思いが効果的に表現される。また、登場人物の人柄や心情が伝わり、物語の展開を読み取りやすくなるという効果がある。</p> <p style="text-align: right;">(414字)</p>			
三	④	<ul style="list-style-type: none"> 擬音語・擬態語の表現効果について書いた意見文を交換し合う。 『擬音語・擬態語』が語るもの」の学習を振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> 友達の意見を知り、自分の考えや感じ方を広げたり深めたりさせる。 日常生活の中で、擬音語・擬態語を使い、豊かな言語生活を送るように意識させる。

(参考文献・資料)

- ・『説明力』を高める国語の授業 米田 猛 明治図書 2006
- ・「中学生の読書指導 読書生活者を育てる」安居 総子 東京都中学校青年国語研究会編著 2005
- ・「暮らしのことば 擬音・擬態語辞典」山口仲美 編 講談社 2003

☆「擬音語・擬態語」を使った学習のアイデア例

- 1枚の写真を、擬音語・擬態語を使って、一つの物語を創作する。
- 「小林一茶の作品」の俳句に使われている擬音語・擬態語の表現効果について、考えた解説文を書く。
 - 関連指導 1 一茶が使っている擬音語・擬態語を使って、自分で俳句を作る。
 - 関連指導 2 一茶と同じ擬音語・擬態語を使った別の俳句を引用して、それぞれの俳句における擬音語・擬態語の表現効果を分析した解説文を書く。
- 現代の暮らしの中で使われている擬音語・擬態語の表現効果について述べる解説文を書く。
 - (例) もし、「ボンボン(応援道具)」が、「ホンホン」「ボンボン」という名前だったら?

— 作 成 委 員 —

新 免 照 代	奈 良 市 立 富 雄 南 中 学 校	校 長
久 保 文 枝	奈 良 市 立 三 笠 中 学 校	教 諭
隅 岡 歩	大 和 郡 山 市 立 郡 山 西 中 学 校	教 諭
辰 巳 喜 美	安 堵 町 立 安 堵 中 学 校	教 諭
東 畠 智 子	奈 良 県 教 育 委 員 会 事 務 局 学 校 教 育 課	指 導 主 事
浦 井 康	奈 良 県 教 育 委 員 会 事 務 局 学 校 教 育 課	指 導 主 事

(作成委員の職名等は平成22年度のものである。)